

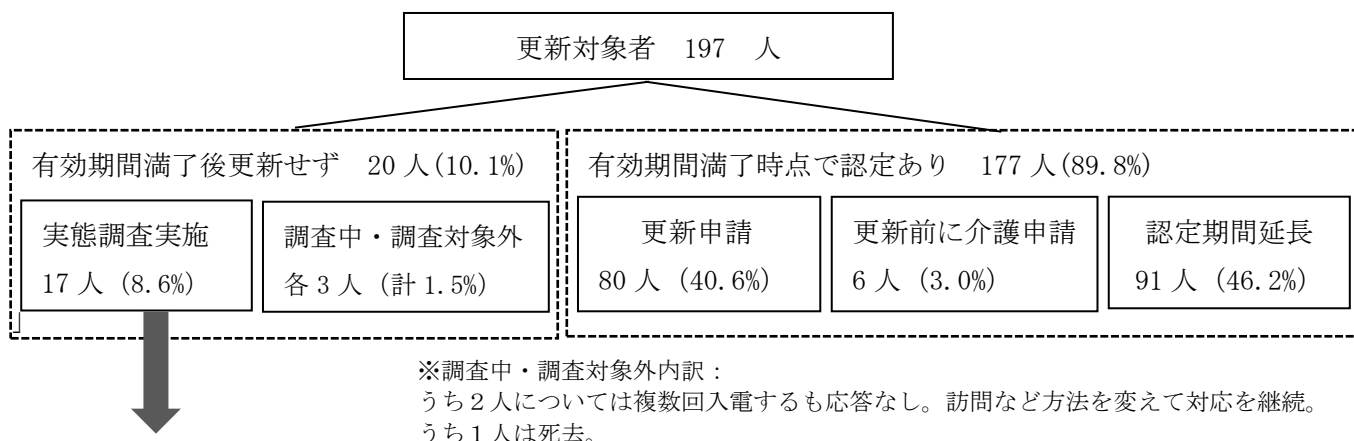
令和4年度介護サービス未利用者の定期的な実態把握結果中間報告

1 調査期間

令和4年4月から令和4年9月まで

2 調査対象者及び調査時期

前回の介護度が要支援1・2の介護サービス未利用者。令和4年5月末から令和4年10月末に要介護認定の有効期間満了を迎える更新時に、更新申請を行わなかった者に対し在宅介護・地域包括支援センター職員が訪問または電話にて実態把握を行った。



3 調査項目及び調査結果

	質問項目	はい	いいえ	未回答
1	1. この1年間の体調変化がありましたか	3 人 (17.6%)	14 人 (82.4%)	0
2	1で「はい」と答えられた方→それはどのようなことですか ・腰痛が強くなり、接骨院に行った ・骨粗鬆症の薬をやめた			
3	3. 身の回りのことをご自身でできますか	17 人 (100%)	0 人 (0%)	0
4	世帯構成	ひとり 3 人 (17.6%)	高齢者のみ 6 人 (35.3%)	その他 8 人 (47.1%)
5	生活のお手伝いをしてくれる人はいますか	16 人 (94.1%)	1 人 (5.9%)	0
6	15分くらい続けて歩いていますか	15 人 (88.2%)	2 人 (11.8%)	0
7	週に1回以上は外出していますか	17 人 (100%)	0 人 (0%)	0
8	普段就労や介護予防事業等に参加していますか	5 (29.4%)	12 (70.6%)	
	8「はい」の内訳：就労2人(11.8%)、コミュニティセンター3人(17.6%)、不老体操1人(5.9%)、その他1人(5.9%) ※その他内訳：写真教室			
9	日常生活の中で、気になるような物忘れがありますか	1 (5.9%)	16 (94.1%)	0
10	体調が悪い時や災害時などに、手助けしてくれる家族や親戚、知人等がいますか (11は緊急連絡先記入)	16 (94.1%)	1 (5.9%)	0

	質問項目	はい	いいえ	未回答
12	定期的に通院をしていますか (13は通院先記入)	17 (100%)	0 (0%)	0
14	定期的に内服薬を処方されていますか	16 (94.1%)	1 (5.9%)	0

4 次回の訪問時期

区分	訪問時期	人数 (割合)
A	1 か月後	0
B	3 か月後	0
C	6 か月後	0
D	1 年後	3 人 (17.6%)
E	実態把握終了	14 人 (82.4%)

- ・次回訪問時期を「D (1 年後)」とした対象者は3人。「高齢者のみで日頃サポートしてくれる人がいない」、「15分続けて歩くことが出来ない」ことが実態把握継続の理由である。

5 訪問時の対応

- ・訪問時、15人の調査対象者に「在宅介護・地域包括支援センターの連絡先」を周知した。
- ・サービスの利用要件に該当する方6人には「レスキューヘルパー (高齢者緊急訪問介護) 事業」、5人には「高齢者安心コール事業」の案内を行った。

6 実態調査後新規申請状況

- ・実態調査を実施した17人のうち、調査実施後要介護認定申請に至った人は1人 (5.9%) だった。

申請理由および認定結果内訳：

ADLが低下し一人で外出できず通院が難しくなったため、訪問診療を開始。

要介護1と認定。

7 令和4年度上半期の傾向と課題

「新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取扱いについて (その4)」 (令和2年4月7日厚生労働省老健局老人保健事務連絡) に基づき、有効期間延長について対応を継続している。令和4年度上半期の認定期間延長者91人は全更新対象者の46.1%にあたり、令和3年度上半期の40.1%と比較しても6ポイント高い値となっている。有効期間延長の対応が始まり2年以上が経過していることから、この間の実態把握ができていない現状がある。

実態調査対象者に限っては、「身の回りのことをご自身でできている人」、「週1回以上は外出している人」の割合は100%との結果から調査の時点では身の回りの事は自分で行え、外出をする力があるため、介護サービスを利用する必要がない状況にあることが分かった。これは、実態を聞き取り把握ができた結果である。

このことから急激に状態が低下する高齢者の特徴を考慮し、状態の早期発見・介入が行えるよう、引き続きサービス未利用者に対する調査を行う。